

令和 5 年 5 月 2 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H00100

研究課題名（和文）学校システムにおける排除と包摂に関する教育社会学的研究 - マイノリティの視点から

研究課題名（英文）A Sociological Study on Exclusion and Inclusion in the Japanese School System

研究代表者

志水 宏吉 (SHIMIZU, Kokichi)

大阪大学・大学院人間科学研究科・教授

研究者番号：40196514

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 32,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、「同和地区の人々」「貧困層」「外国人」「障害者」という4つのマイノリティー集団を対象として、彼らが日本の学校教育システムからどのように排除されているかについての実態を把握したうえで、彼らをいかに包摂しうるかという問いについて検討を加えた。中心に行ったのが、上記4つのグループに該当する高校生年代の子どもたちに対する聞き取り調査である。それに合わせて、学卒者・学校教師・その他教育関係者に対する聞き取りも付加的に実施した。排除の実態については、「学校からの排除」「学校のなかの排除」「学校から社会の移行に関する排除」の3つのカテゴリーを設定し、それぞれについて分析を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本調査の成果は最終報告書に整理している。その中身は、4つのマイノリティー集団の高校生・若者たちに対するインタビュー調査の分析であり、付加的に海外（イギリスとフランス）で行った現地調査の結果である。教育における排除と包摂というテーマは、現在の教育社会学分野において最も注目されている研究分野の一つであり、当事者の視点に焦点を当てた研究は数少ない。なおかつ本研究は、4つの集団の学校体験を横断的に俯瞰し、比較検討するというユニークな資格をもつ経験的研究である。学校教育の今後を考える上で、きわめて貴重な知見と示唆を提供するものである。

研究成果の概要（英文）： The aim of this study is to explore how minority groups are excluded from the Japanese school system in Japan and to consider how to include them in it. Our focus is on four minority groups, that is, Buraku students, students in poverty, foreign students and handicapped students. Semi-structured interviews with them have been conducted and their subjective point of view have been stressed in our analysis.

研究分野：教育社会学

キーワード：排除 包摂 マイノリティ集団 学校システム 聞き取り調査

1. 研究開始当初の背景

申請者が所属する大阪大学には多くの教育社会学者が在籍し、日本のなかでの一大拠点となっている。そのなかでも被差別部落の子どもたちの低学力問題を嚆矢とする「マイノリティと教育」研究の流れは、その学風の大きな特徴となっている。申請者自身は、この20年ほどにわたって、「ニューカマー」と呼ばれる外国にルーツをもつ子どもたちの教育支援を主たる研究テーマの一つとしてきた(志水宏吉・清水睦美『ニューカマーと教育』2002年など)。「被差別部落」「ニューカマー」「障害児」にかかわる社会的・教育学的研究の流れを総括した前掲レビュー論文(2014年)は、そうした文脈に位置づくものである。

合わせて申請者は、以前に日本学術会議の正会員であり、「排除・包摂と教育」という名称を掲げた分科会の委員長をつとめた。その分科会では、上記テーマにかかわる「提言」を2020年のまとめ、広く社会に向けて発信した。

本研究は、そのような背景のもとに構想されたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代日本の学校教育システムが有する特性とそこから生じる諸課題を、「マイノリティ集団に対する排除と包摂」という視点から把握し、その改革・改善の方途を探ることにある。かつてはその平等性や全人性を海外からも高く評価されていた日本の学校教育システムであるが、1990年代以降の格差社会化の趨勢や「ペアレントクラシー」(=親の富と教育期待が子どもの将来を大きく規定する事態)と呼ばれる動向の進展のなかで、そのあり方にほころびが目立ち始め、公教育の危機が叫ばれるようにすらなっている。具体的には、階層間・社会集団間の教育達成の格差が顕在化し、その平等化機能や社会統合機能に疑問符が呈されるようになってきている(佐藤学他『社会のなかの教育』2016年)。

本研究では、「被差別部落民」「外国人」「障害者」「貧困層」という4つのマイノリティ集団を設定し、彼らに対する教育的排除を、1)彼らが有する教育機会の現実(後期中等教育および高等教育への進学機会を中心に。統計データの収集等を通して)、2)それに対する当事者の経験や評価(14~21歳の若者層への聞き取り調査を通して)の二側面から把握する。その上で、彼らをよりよく社会的に包摂するための方向性や具体的方策を、国内(東京と大阪)や海外(イギリスとフランス)の先進事例を参考にしながら、理論的・実践的に構想していきたい。

本研究の成果は、期間終了後一年以内に出版物として公刊し、広く社会に向けて発信するほか、中央・地方教育行政にも提言の形で適宜フィードバックする予定である。

3. 研究の方法

本研究では、以下の3つの研究作業を行うものと構想された。

研究A:

全国の都道府県を対象とした調査から、マイノリティの排除・包摂にかかわる各種のハードデータを収集する。

研究B:

国内の2地点(東京と大阪)において、当事者対象の聞き取り調査を実施する(各地でグループ10名×4グループ、合わせて80名を目標とした)。

研究C:

海外の2カ国(イギリスとフランス)で、本テーマに関する現地調査を実施する(各国10日間程度、3名の調査員を派遣予定)。

2020~22年度という本研究の助成期間は、日本(世界)でコロナ禍が蔓延した時期とぴったり重なるものであり、研究の推進・継続には大きな障害があったと言わざるをえない。そうした状況のなかで、上記3つの研究作業を何とか完遂することができた。

4. 研究成果

研究成果は、最終報告書に整理されている。

報告書は、5つのパートに分かれている。4つのマイノリティ集団の学校体験に切り込んだ4つのパートとイギリスとフランスにおける現地調査の結果をまとめた5番目のパートである。

本研究の中核をなすのは、「当事者」である高校生および若者を対象とした半構造化インタビュー結果の分析である。その分析に当たっては、各班共通の枠組みとして、「学校からの排除」「学校のなかの排除」「学校から社会への移行にかかわる排除」という3つのカテゴリーを設定し、当事者たちの主観的・経験的世界を共通の視点から読み解くという作業を行った。

そもそも4つの集団カテゴリーはその社会的起源と今日的存在様式において多様性を持つものであり、それぞれのカテゴリーに所属する当事者たちの意識・生活のありようも一枚岩では捉えられないものであった。その詳細は、最終報告書に記載している。

今後は、見出された結果に対してさらなる分析・検討を行い、これから1年後をメドとして、その成果を広く社会に公開する予定である。具体的には、岩波書店から一般の読者にもアクセス可能な書物として刊行する予定となっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山口真美・知念渉	4. 巻 16
2. 論文標題 子どもの剥奪指標の構築：阿部（2014）を手がかりに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育文化学年報	6. 最初と最後の頁 51 - 60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大川ヘナン	4. 巻 17
2. 論文標題 定時制高校で学ぶ外国ルーツ生徒への支援に関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育文化学年報	6. 最初と最後の頁 25 - 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 轟蕙菁、山脇佳、榎井縁、王一瓊、大川ヘナン、山本晃輔、石川朝子	4. 巻 10
2. 論文標題 公教育における外国人生徒の排除と包摂 5つの高校の比較調査から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 未来共創	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ハヤシザキカズヒコ・栗原和樹・王一瓊・石川結加	4. 巻 72
2. 論文標題 イングランドにおけるソーシャルインクルージョン	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 55 - 70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口真美・瀬戸麗・王一瓊・ハヤシザキカズヒコ	4. 巻 32
2. 論文標題 マイノリティの子ども・若者の学力保障と進路保障：イングランドでのフィールドワークに基づいて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 松山東雲女子大学人文科学部紀要	6. 最初と最後の頁 35 - 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 西田芳正・数実浩佑・山口真美・西 徳宏・志水宏吉
2. 発表標題 高校生はどのように貧困を経験したのか 貧困を生きる子ども・若者の排除と包摂 (1)
3. 学会等名 日本教育社会学会第73回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 知念渉・栗原和樹・田中祐児・瀬戸麗・志水宏吉
2. 発表標題 高校生はどのように貧困を経験したのか 貧困を生きる子ども・若者の排除と包摂 (2)
3. 学会等名 日本教育社会学会第73回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇田智佳・山川温・中西美裕、
2. 発表標題 障害のある若者が語る学校経験 差異のジレンマに着目して
3. 学会等名 日本特別教育学会第27回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川結加・高田一宏
2. 発表標題 部落出身高校生のアイデンティティ形成と部落問題学習
3. 学会等名 日本教育社会学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西田芳正, 知念渉, 栗原和樹・田中祐児・数実浩佑・西徳宏・山口真美・瀬戸麗・秋山みき・志水宏吉
2. 発表標題 都市で育つ / 育てる : 親子への量的・質的調査に基づく社会空間の素描
3. 学会等名 日本教育社会学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 榎井緑・轟蕙菁・山脇佳・石川朝子・王一瓊・大川ヘナン・山本晃輔
2. 発表標題 公教育における外国人生徒の排除と包摂 5つの高校の比較調査から
3. 学会等名 日本教育社会学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 知念渉
2. 発表標題 デジタル・ネイティブ世代の社会関係
3. 学会等名 日本社会学会第95回大会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 王一瓊・榎井縁
2. 発表標題 しんどい(子)」という包括的捉え方が抱えるジレンマ：関西圏N高校における言語的少数派生徒への支援を例に
3. 学会等名 多言語化現象研究会第81回研究発表
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	棚田 洋平 (Tanada Yohei) (00639966)	一般社団法人部落解放・人権研究所(調査・研究部)・企画・研究部・研究員 (84426)	
研究分担者	知念 涉 (Chinen Ayumu) (00741167)	神田外語大学・グローバル・リベラルアーツ学部・准教授 (32510)	
研究分担者	西田 芳正 (Nishida Yoshimasa) (10254450)	大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科 教授 (24405)	
研究分担者	林寄 和彦 (Hayasizaki Kazuhiko) (10410531)	福岡教育大学・教育学部・准教授 (17101)	
研究分担者	二羽 泰子 (Futaba Yasuko) (20802507)	静岡県立大学・国際関係学部・講師 (23803)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 晃輔 (Yamamoto Kosuke) (30710222)	関西国際大学・社会学部・講師 (34526)	
研究分担者	榎井 縁 (Enoi Yukari) (50710232)	大阪大学・大学院人間科学研究科・特任教授（常勤） (14401)	
研究分担者	西 徳宏 (Nishi Norihiro) (50825627)	大阪大学・大学院人間科学研究科・助教 (14401)	
研究分担者	内田 龍史 (Uchida Ryuji) (60515394)	関西大学・社会学部・教授 (34416)	
研究分担者	石川 朝子 (Ashikawa Tomoko) (60759877)	下関市立大学・都市みらい創造戦略機構・特任教員 (25501)	
研究分担者	数実 浩佑 (Kazumi Kosuke) (60908622)	宝塚大学・東京メディア芸術学部・講師 (34520)	
研究分担者	王 一瓊 (Ou Ikkei) (70913523)	大阪大学・大学院人間科学研究科・特任助教（常勤） (14401)	
研究分担者	高田 一宏 (Takada Kazuhiro) (80273564)	大阪大学・大学院人間科学研究科・教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	園山 大祐 (Sonoyama Daisuke) (80315308)	大阪大学・大学院人間科学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	堀家 由妃代 (Horike Yukiyo) (80411833)	佛教大学・教育学部・准教授 (34314)	
研究分担者	山口 真美 (Yamaguti Manami) (30964902)	松山東雲女子大学・人文科学部・講師 (36303)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関